

(お知らせ)

柏崎刈羽原子力発電所 2・5号機における定期安全レビューの実施について

2026年3月12日

東京電力ホールディングス株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

当発電所では「実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則」に基づき、定期安全レビューを実施しております。

定期安全レビューとは、「実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則」に基づき、10年を超えない期間において、原子炉設置者が原子炉ごとに「原子炉施設における保安活動の実施状況」および「原子炉施設に対して実施した保安活動への最新の技術的知見の反映状況」を定期的に評価する活動です。

このたび、2号機（沸騰水型軽水炉、定格電気出力110万キロワット、1990年運転開始）および5号機（沸騰水型軽水炉、定格電気出力110万キロワット、1990年運転開始）について、第3回目の評価結果を取りまとめましたので、お知らせいたします。

今回実施した定期安全レビューは、2016年3月にお知らせした以来の3回目の評価であり、2014年4月1日から2024年3月31日までを対象期間として評価を行い、保安活動が継続的に改善され、安全性の維持・向上が適切に図られていることを確認しました。

今後も現状の保安活動を実施・改善していくことにより、発電所の安全性・信頼性の向上に努めてまいります。

以上

別紙：「柏崎刈羽原子力発電所 2・5号機定期安全レビュー（第3回）報告書の要旨」

柏崎刈羽原子力発電所2・5号機定期安全レビュー（第3回）
報告書の要旨

1. 当所2・5号機について

当所2・5号機は、定格電気出力110万キロワットの沸騰水型軽水炉です。2号機は1990年9月に営業運転を開始し、5号機は1990年4月に営業運転を開始しております。

これまでの運転実績は、以下のとおりです。

	2号機		5号機	
	運転開始後 累計	今回評価 期間累計	運転開始後 累計	今回評価 期間累計
累積発電電力量 (億kWh)	1219	0	1407	0
計画外停止回数 (回/年)	0.12	0	0.06	0
累計設備利用率 (%)	37.7	0	43.0	0

※ 評価対象期間末日（2024年3月31日）までの運転実績

2. 評価対象期間

2014年4月1日から2024年3月31日

3. 保安活動の実施状況の評価

「品質保証活動」「運転管理」「施設管理」「燃料管理」「放射線管理及び環境モニタリング」「放射性廃棄物管理」「事故・故障等発生時の対応及び緊急時の措置」「健全な安全文化を育成及び維持するための活動」について、各保安活動の改善状況を評価しました。

その結果、改善する仕組みが妥当であると判断しました。主な判断理由は以下の通りです。

- ・ 自主的に実施した改善が継続していること。
- ・ 不適合事象や指摘事項等に対する改善活動が実施済みであるか、実施中、もしくは計画済みであること。
- ・ 不適合事象や指摘事項等に対する改善活動が継続していること。

- ・同様な不適合事象や指摘事項等が再発していないこと、もしくは、再発しているが更なる改善が図られていること。

なお、評価期間中に改善を実施した主な内容は以下のとおりです。

[品質保証活動]

- ・原子力人財育成センターの設置
- ・セキュリティ管理部の設置 等

[運転管理]

- ・運転上の意思決定（ODM）※運用ガイドの導入
- ・コア技術抽出による若年層運転員の人財育成・力量向上 等

※プラントに異常徴候が認められるが、承認された手順書（例：警報発生時操作手順等）では、明確に定義されないプラントの安全性や運転の信頼性が低下する状態に適切に対応するための意思決定であり、プラントを安全な状態で管理し、効果的な方法で解決するために実施する。

[施設管理]

- ・協力企業と一体となった施設管理への取り組み
- ・モバイル設備管理グループの設置
- ・コンフィグレーションマネジメントグループの設置 等

[燃料管理]

- ・燃料交換機直営運転員の教育・訓練 等

[放射線管理及び環境モニタリング]

- ・ALARA※レビュー会議の開催 等

※1977年に国際放射防護委員会が勧告したで示した放射線防護の基本的考えであり、「as low as reasonably achievable」の略称（線量を合理的に達成可能な限り低くすること）

[放射性廃棄物管理]

- ・廃棄物低減プログラムの実行 等

[事故・故障等発生時の対応及び緊急時の措置]

- ・ 国、地方公共団体及び関係機関への通報連絡体制の強化 等

[健全な安全文化を育成及び維持するための活動]

- ・ 安全と品質達成のための行動基準の定着活動の実施
- ・ 安全文化モニタリングパネルの開始 等

4. 保安活動への最新の技術的知見の反映状況の評価

保安活動への最新の技術的知見（安全研究成果、国内外の原子力発電所の運転経験から得られた教訓、技術開発成果、耐震新知見情報）の反映状況を評価した結果、原子炉施設の安全性を確保する上で重要な設備等について、最新の技術的知見を適切に反映している、反映が実施中である、もしくは反映を計画していることから安全性・信頼性の維持・向上を図っていると判断しました。

また、福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえ、浸水防止対策の強化、電源機能の強化、注水・冷却機能の強化、水素爆発の防止、計測・監視機能の強化、緊急時体制の強化等を実施してきており、引き続き更なる安全性の向上に努めてまいります。

技術的知見の主な反映事項は以下のとおりです。

- ・ 福島第一原子力発電所事故を踏まえた対応
- ・ 当所6号機における不適切なケーブル敷設に係る対応
- ・ 北陸電力株式会社志賀原子力発電所2号機の原子炉建屋内に雨水が流入した事象に係る対応 等

今後とも原子炉施設の安全性・信頼性に関する重要な技術的知見が得られた際は、これら技術的知見を反映すべく継続して自主保安活動を実施してまいります。

以 上